学校部活動の地域移行に向けた取組について

1　国から示されたガイドラインの概要　【資料№.4-2】

○少子化が進む中、将来にわたり生徒が**スポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保**するため、部活動改革に取り組む。
○生徒の自主的で多様な学びの場であった**部活動の教育的意義を継承・発展**させ、新しい価値が創出されるようにすることが重要。
○**地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる**という意識の下、地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備。
○地域の実情に応じ生徒の**スポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消**することが重要。
＊まずは、休日における地域の環境整備を着実に推進
＊Ｒ５～Ｒ７年度までの３年間を改革推進期間として地域連携・地域移行に取り組む

2　H30 部活動実態調査で明らかになった課題

・少子化に伴う部活動数の減少と選択肢の減少による体験格差（スポーツ・文化芸術）
・専門的な知識や経験が少ない教職員による指導（スポーツ・文化芸術）
・勝利至上主義やコンクールへの上位入賞等、過度の期待（スポーツ・文化芸術）
・長時間化する運動部活動の活動時間と継続する部活動延長の社会体育（スポーツ）

3　飯田市のこれまでの取組

	学校における取組 部活動の適正化	地域における取組 新たな活動の場づくり	
Ｒ１	放課後部活動オフ期間導入（１ケ月） 適正な部活動の推進（部活動指針改定）	全市型競技別スポーツスクール 試行実施（１月）	
Ｒ２	本格実施（11～１月　３ヶ月間） 「部活動の延長の社会体育」の廃止	本格実施（９～３月）	文化講座の情報提供 施行実施
Ｒ３	冬期ｼﾞﾌﾞﾝ・ﾁｬﾚﾝｼﾞ期間（名称変更） やりたいことに挑戦するｵﾝﾗｲﾝ授業	体験型スクール導入 （７月～） 競技力向上スクール （９月～）	本格実施 プログラミング教室、 人形劇、英会話、 公民館行事など
Ｒ４	冬期ｼﾞﾌﾞﾝ・ﾁｬﾚﾝｼﾞ期間 生徒主体の部活動運営モデル事業		

4　地域移行の考え方、目的、取組の方向性

（１）部活動地域移行を進めていく上での考え方
・現在ある学校部活動をそのまま地域に移行するものではなく、地域における新たな文化芸術・スポーツ活動の場づくりを関係者と理念を共有しながら進める。
・生徒の活動の場づくりにとどまらず、多様な世代が参加する地域の文化芸術・スポーツ環境の充実につながるよう進める。（次世代への伝統文化継承）

（２）目的

『中学生がウェルビーイングを感じながら、地域の中で、主体的に様々な文化芸術・スポーツ活動に取組むことを通じて、心身の健やかな成長と豊かな社会性を育む』

＊ウェルビーイング：楽しい、熱中する、仲良く、充実感を得られる、成長する等のさまざまな生徒の欲求を踏まえた　心も体も健康で幸せな状態

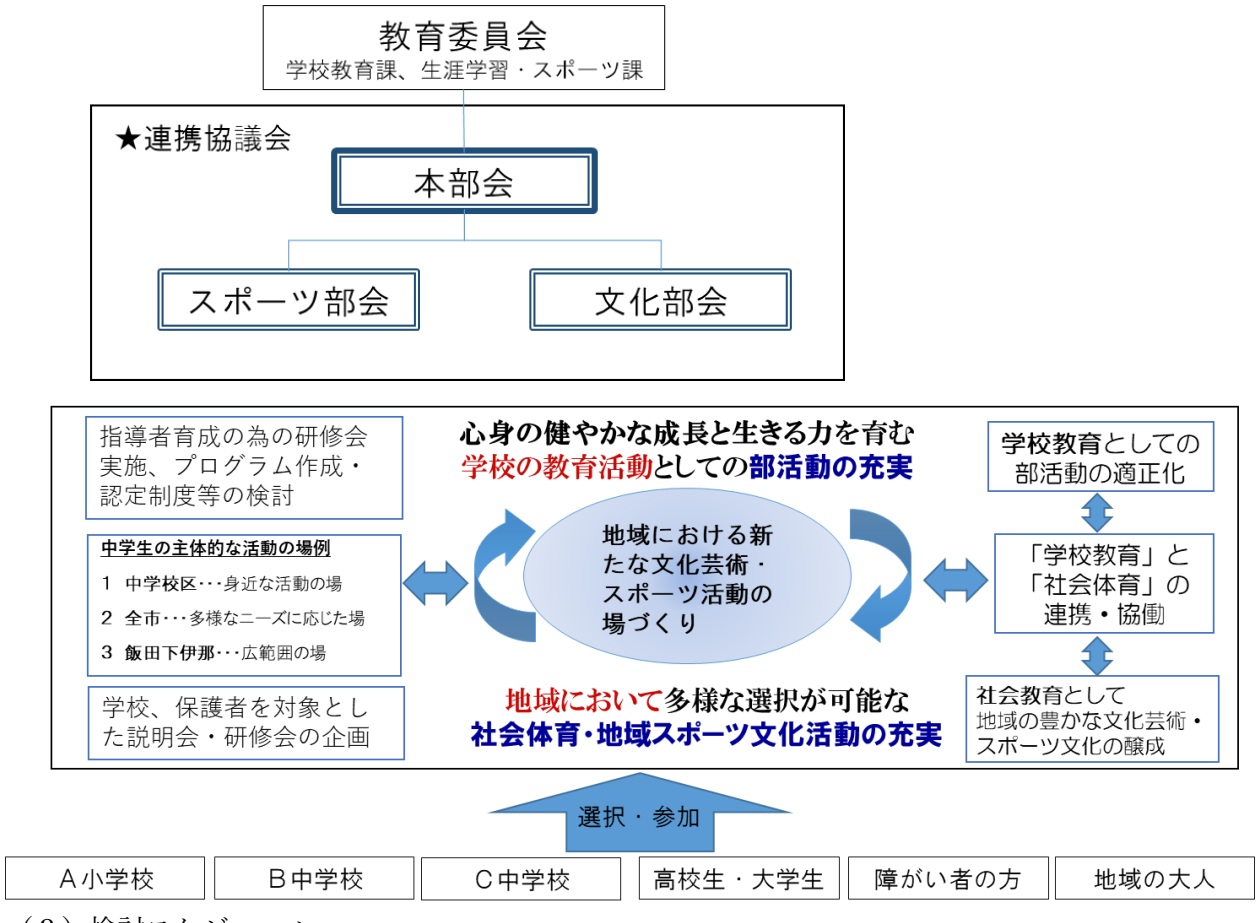
（３）取組の方向性

これまでの取組を土台にして、学校部活動の適正化や生徒の主体性を育む取組等は継続しながら、生徒が地域の中で、やりたいスポーツ・文化芸術活動に挑戦できる場づくりを進めていく。

５　地域における活動の場づくりに向けた検討

（１）関係者による協議の場の設置

学校、地域、関係団体等が現状や課題についての情報交換や今後のより良い環境整備について協議するため、飯田市中学生期の文化芸術・スポーツ活動連携協議会を設置した



（２）検討スケジュール

・５月 24 日（水）第１回本部会、全体会開催

・６月 19 日（月）スポーツ部会　　・6/29（木）文化部会

以降　第２回本部会までに各部会 2～3 回程度開催予定

・11 月 16 日（木）第２回本部会　　・２月６日（火）第３回本部会

※令和５年度から学校と地域、各団体をつなぎ体制整備をめざす部活動地域移行支援コーディネーターを配置して取り組んでいく。